

「市議会議員候補者数の3分の1を（環境NPOなどの）市民グループから、3分の1を無差別選出の市民から、3分の1を従来通りの立候補者から、そして市議会定員の50%を女性に」に関する陳情

[願意]

船橋市議会選挙において、その候補者の3分の1を（環境NPOなどの）市民グループから、3分の1を（市民会議的手法で）無差別に選んだ一般市民（ただし本人の承諾は必要）から、残りの3分の1を従来通りの政党などからの立候補者にする制度を。また、議会の定員の半数を女性にする制度を制定してください。

[理由]

現代は深まる環境危機、広がる一方の格差、化石燃料文明の行き詰まり、ジェンダー問題、少子化問題など重大課題が山積しています。それに対して従来の制度が対応できないまま、問題は肥大化する一方、経済も急速に縮小しています。特にここ日本は30年来すべてにおいて停滞し、他の先進国が様々な改革に挑戦し、様変わりしているのに対して、あいかわらず歴史の過去に止まってい、厳しい22世紀の環境に対応できないまま危機が深まり続けている、というのが市民からみた日本の国政であり地方自治の様態です。

その一つの原因に政治・政策が創造性にかげ、古色然たる政党主導のトップダウン、圧倒的な男性中心、進まない世代交代、そして古い考えが社会変革のブレーキになっていると感ぜられます。新しい時代には新しい考えとシステム

が必要です。地方においても、その重要課題を解決する政策決定において、新しく創造的な人と制度が一刻も早く生まれ、時代を変え乗り越えてゆく必要があります。そのためには、市民が直接市政に関与でき、すべての市民が市政に関心を持ち決定できる制度が必要と考えます。その1案が冒頭に記した選挙制度と市議会の男女構成です。すべての市民の声とアイディアと実行力がこの未曾有の危機の時代にもとめられています。